

長梅雨・コロナ禍の中なれど
108周年 立教記念大祭、厳粛盛大に挙行 (7月26日)
 一宵宮・納涼会も笑顔溢れ(記事は4ページ)
 ご教話「神霊の存在、自然の摂理を説き広めよ」

本日は、寶生教の立教記念大祭、誠に目出度う御座居ます。大変足下の悪い中、西播、養老両教会長様を始め、支部ご家族、教信徒の皆様、又東は関東、東海、西は中国地方から、そして畿内、大阪近郊の本部教信徒の皆様、道の長手も一筋に、ようこそご参拝下さいました。始めに、教信徒皆様から心暖まる夏のご挨拶を賜りまして、誠に有難う御座居ます。幣帛料、又心尽くしのお品は、大神様にお供えし、お喜び頂きました。重ねて御礼申し上げます。又全国各地で自然災害が相次いでおります。被災地の一日も早い復旧、復興を



ご教話なさる長本部様



発行所 本部大阪教生寶
 大阪府西淀川区北堀江3丁目10番
 電話 06(6531)6722
 FAX 06(6531)6152
 © (非売品)

9月号

自家成立の
 根源は和にあり
 秩序の根源は
 神祖崇敬より

充分にお楽しみ頂き、大神様のお徳を授かって頂いた次第です。先程の大祭祭典中、舞楽「賀殿」を奉納致しました。舞人は副本部長夫妻。祭員の白い装束に対し、赤系統の襲装束を纏って、優雅に華やかに奉納頂きました。扱、来る七月二十日、寶生教の立教の日で御座居ます。私共の寶生教が生まれたのは、今更申し上げるまでも無く、御教祖の神懸かりに由るものです。明治四十五年七月、時の帝、明治天皇は二週間程前より病床に臥しておられ、国民は天皇の病状平癒を切



に願っておりまして。しかしながら、国民の願い虚しく、七月三十日午前〇時四十三分、宝算六一歳で崩御されました。明治天皇崩御の数日前より、御教祖の様子がいともと違ふと、家族は気付いていたそうです。そして七月三十日未明、これまでにない大きな御霊動が起き、大神様が御教祖の身体に御降臨されたのです。そして突然、「天皇陛下が亡くなられた」「汝、世に出よ」と叫ばれました。当時はテレビや電話の無い時代。明治天皇が崩御されたことはまだ御教祖の村には伝わっていません。大神様自らが、御教祖の身体を使って仰られた言葉なのです。「明治天皇亡き後、日本は麻の乱れたような国になるであろう。もう一度しっかり明治の御世の状態を持ち続けよ」

道を選ぶ力を授けて下さい。こういつた力を、現代を生きる私達はより強く持つべきなのかも知れません。授けて下さい。更に、様々に溢れる情報の中から、誠の真実を見つけて出して、悪しき道に惑わされず、神の御心に副った

いたのです。ですから、川には生きる上で必要不可欠な水が流れて来ますが、鬼は水と共にやって来るといふことで、時には、鬼のもたらす災いも流れて来る、表裏一体ということなのです。しかし、その様な鬼を、昔の人は殲滅することはなく、鬼逐らいという表現をしてきた。現代では、鬼を滅すというタイトルのアニメが、世の中で流行、受入れられているという事は、少しづつ日本人のものの考え方が変わっているのではないかとこの様に、人間とウィルスとの関係は今に始まったことではありません。昔から、人間はウィルスと共存しているのです。勿論、私達の身体の中にも数え切れない程の微生物が存在しているの、私達で安心した生活を得る力を



修行殿ステージでは、恒例の吹奏楽に加え、プロのピアニスト・コントラバスのコンサートも。

立教記念大祭の前日、宵宮祭並びに神賑わい行事、納涼会が開催されました。当日朝拝後より、役員、有志の皆様が、翌日の大祭の準備、納涼会準備と、時折雨の降る中を、着々とご準備下さいました。夕四時、定刻通り先ずは宵宮祭を厳粛に、滞り無く斎行、翌日の大祭斎行を、大神様、御教祖にご報告申し上げ、疫病退散はもとよ

授けて下さい。更に、様々に溢れる情報の中から、誠の真実を見つけて出して、悪しき道に惑わされず、神の御心に副った

立教記念大祭
 コロナ対策の下、笑顔溢れ、賑々しく

宵宮・納涼会(七月二十五日)

立教記念大祭の前日、宵宮祭並びに神賑わい行事、納涼会が開催されました。当日朝拝後より、役員、有志の皆様が、翌日の大祭の準備、納涼会準備と、時折雨の降る中を、着々とご準備下さいました。夕四時、定刻通り先ずは宵宮祭を厳粛に、滞り無く斎行、翌日の大祭斎行を、大神様、御教祖にご報告申し上げ、疫病退散はもとよ

道を選ぶ力を授けて下さい。こういつた力を、現代を生きる私達はより強く持つべきなのかも知れません。授けて下さい。更に、様々に溢れる情報の中から、誠の真実を見つけて出して、悪しき道に惑わされず、神の御心に副った

立教記念大祭
 コロナ対策の下、笑顔溢れ、賑々しく

宵宮・納涼会(七月二十五日)

立教記念大祭の前日、宵宮祭並びに神賑わい行事、納涼会が開催されました。当日朝拝後より、役員、有志の皆様が、翌日の大祭の準備、納涼会準備と、時折雨の降る中を、着々とご準備下さいました。夕四時、定刻通り先ずは宵宮祭を厳粛に、滞り無く斎行、翌日の大祭斎行を、大神様、御教祖にご報告申し上げ、疫病退散はもとよ

立教記念大祭の前日、宵宮祭並びに神賑わい行事、納涼会が開催されました。当日朝拝後より、役員、有志の皆様が、翌日の大祭の準備、納涼会準備と、時折雨の降る中を、着々とご準備下さいました。夕四時、定刻通り先ずは宵宮祭を厳粛に、滞り無く斎行、翌日の大祭斎行を、大神様、御教祖にご報告申し上げ、疫病退散はもとよ

立教記念大祭
 コロナ対策の下、笑顔溢れ、賑々しく

宵宮・納涼会(七月二十五日)

立教記念大祭の前日、宵宮祭並びに神賑わい行事、納涼会が開催されました。当日朝拝後より、役員、有志の皆様が、翌日の大祭の準備、納涼会準備と、時折雨の降る中を、着々とご準備下さいました。夕四時、定刻通り先ずは宵宮祭を厳粛に、滞り無く斎行、翌日の大祭斎行を、大神様、御教祖にご報告申し上げ、疫病退散はもとよ



御本殿1階では子供達、お楽しみの屋台遊びも。

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

寶生教 国旗掲揚運動

大阪本部
 十月十一日(日)
 午前十時半

養老教会
 十月二十五日(日)
 十一月三日(祝)

西播教会

〈御本宮、月並祭・大祭への参拝について〉
 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、八月より十月までの間、御本宮への参拝は、ご遠慮いただきたいとのことです。

とはどの様な状態のことな
のでしよう。

明治以来、時を重ね昭和
に入り、日本という国家は
大きな転換期を迎えまし
た。大東亜戦争の敗戦です。
敗戦より以降の日本人
は、自分達の歴史を失い、
その後の歴史をも、どこか
芯を失ってしまった様な気
が致します。

明治の日本が持つてい
て、現代の我々が失いかけ
ているものとは、一体何な
のでしょうか。

「あるユダヤ人の懺悔 日
本人に謝りたい」という書
籍があります。この書籍の
中で、著者のモルデカイ・
モーゼというユダヤの長
老が、

「大東亜戦争以前の日本
の、天皇を中心とした君民
共治の姿、家族、同族を大
切にする家族制度の姿、民
族の歴史に誇りを持つ姿
こそ、我々ユダヤ民族が有史



全員起立で国歌「君が代」斉唱。

以来、理想としていた姿な
のです。

「ですから私達ユダヤ民
族は、戦勝国アメリカで、
東洋の島国日本が誇りを失
い、二度と白人に立ち向か
われない様に仕向けた様な
政策が、戦後の占領政策だ
ったのです。

と懺悔しているのです。
つまり、御教祖の仰る、
「明治の御世の状態」こそ
が、全人類、民族が理想と
する世の中だったのです。

しかし、大神様、御教祖
様の仰せの通り、戦後の日
本は残念ながら民族の誇り
を失い、人心は乱れてしま
いました。

例えば年配の方を標的と
した詐欺や、幼児虐待、育
児放棄といった、弱者を攻
撃する痛ましい事件や問題
が増えており、

増して、今年も新型コロナウイルス
ナウイルス感染が未だ治ま
らず、日本のみならず、世
の中には不安に満ち溢れて
います。

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より



直会、感染対策として、全員、御神前に
向かっての新スタイル。

「明の心持ちとは、どうい
うものなのでしょうか。」

それはまさに、「世の中
がどれだけ進んでも、神霊
の存在、自然の摂理、そし
て、私達日本人の本質は変
わらない」ということを理

教 次世代へ引き継ぐ大事なもの

月並祭 (8月15日)

本日、八月十五日は終戦
記念日でございます。私達
日本人にとりまして、この
日は、やはり特別な意味が
あるかと存じます。

お盆という言葉は、元々
盂蘭盆会という言葉が略し
た仏教用語ですが、この期
間に御祖先が各家にお帰り
になって、御霊と人が共に
時間と空間を共有すること
は、神道行事なのです。
そして、先程申しました
大東亜戦争終結の日が重な
って、戦後、より意義深い

日となったのではないでし
ょうか。
今年の終戦記念日は例年
と雰囲気の違いが迎えた
と言われております。毎年
行われます戦没者慰霊祭も
新型コロナウイルスの影響
で一部縮小されました。
七十五回目という節目の
終戦記念日でありました
が、残念ながら総理大臣は
靖国神社を参拝されません
でした。何名かの閣僚が参
拝されたようですが、安倍
首相は参拝されなかった。

これは、安倍首相が自ら
参拝を拒んでいるのではな
く、世論や世間の風潮が足
止めしてしまっている様な
気が致します。

戦争反対、軍事力を持つ
てはいけない等等、言うの
は簡単です。ですが、本当
に戦争を起こさないと為には
一体何が必要なのかを考え
るべきではないでしょうか。
唯々、戦争は悲惨です。よ
うなだけ伝えるのではなく、
戦争が始まった経緯や背景、
歴史的事実を検証して、そ

の悲惨な出来事を如何にし
て繰り返さないかを、後世
に教育という形で伝えなけ
ればならないかと存じます。
何故、靖国神社の英霊を
大切に思い、御霊の安らか
ならんことを祈るのか。
戦地で亡くなられた先人
は、国のために戦って下さ
いと国から告げられ、母国、
故郷、そして大切な家族を
守りたいという一心で、戦
地へ赴かれたわけではな
い。その際、もし戦地で命を
落とされたら、靖国神社で
神としてお祀りしますと
いう約束の下に旅立たれた。
又家族には、もし生きて
帰ってこなければ、靖国に
会いに来てくれよと告げて
行かれたそうです。

そうして国のため、家族
のために戦い、命を落とさ
れた方々の英霊に対し、心
静かに慰霊するのが、今日、
八月十五日なのです。
扱、先日、産経新聞に、
京都大学名誉教授で経済学
者の佐伯啓思氏が寄稿され
た記事も、一部抜粋して紹
介致します。
「新型コロナウイルスを見てい
ると、あの多大な犠牲を払
った戦争の上に築かれた戦
後がこの騒動に帰着したの
か、という暗澹たる気分
になります。
感染者が増加すれば、世

論も大方のメディアも、政
府にわれわれの命を守って
くれという。
しかし、感染が収束に向
かい、経済の悪化が顕在化
するやいなや、政府の自衛
要請を批判し、また早く支
援金や給付金を出せという。
そして政府もこの世論の
動向に振り回され、その方
針が定まらない、という有
様である。危機にあっても
つとも必要な、政府と国民
の相互信頼がまったく見ら
れなかった。

確かに国家が個人の生命
に対して責任を負うという
のは、近代政治学の基本命
題であるが、もし国家にそ
れを要求するのであれば、
本質的に、例外状態におけ
る国家緊急権にまでいたる
問題である。

戦争、自然災害、疫病、
テロなどの緊急事態におい
て、部分的に憲法も民主的
手続きも停止されることを
覚悟することである。

「一方、自粛によって、
インバウンド目当ての観光
業や外食産業、『三密』状
態のカラオケや他の『夜の
街関連』、ライブなどのエン
ターテインメントが悲惨
な状態にあるという。
それがつぶれば、日本
経済全体が大打撃を受ける
のである。つまり、われわ

れの生は、たぶんこれら
のサービス業によって支え
られているということだ。
今日、われわれの日常に
は、ありあまるほどの衣類
や家電製品やグルメや旅行
や様々なエンターテインメ
ントがある。都市の歓楽街
は不夜城である。
だがその一方で、医療や
教育や介護は人手も資金も
困窮し、地方の商店街など
は荒廃の極みになっている。
これが戦後七十五年たっ
てコロナで露わになった光
景ではないだろうか。八月
十五日を迎えて、われわれ
はこの光景を戦死者たちの
霊に捧げることができるの
であろうか。

『平和と繁栄』の七十五
年で、何か大事なものが置
き去りにされた。
生の充実を何に求めるの
か、死の意味づけをどうす



8/15 月並祭後、靖国神社を巡拝。

源のか、といった人間の根
源的な問題はまったく放置
されたままなのである。」
という記事です。まさに、
仰る通りかと存じます。
では戦後七十五年で置き
去りにされた「大事なもの」
とは、一体何なのでしょう
か。
今日はお盆休みというこ
とで、子どもさん方もお見
えです。皆様も子ども時分
を思い出してみてください。
小さい頃は、教会詣りや
お墓参りなど、親の行く所
に無条件に着いていきます。

教 日本人としての心持ちを大切に

祭 祖 (8月9日)

一昨日、八月七日が立秋
で、暦の上ではもう秋です。
八月は「葉月」と申します
が、そろそろ落ち葉が落ち
始める「落ち葉月」に由来
する呼び名とも言われてお
ります。
自然は変わらず巡り、季
節は着実に移りますが、
巷はまだまだ、コロナ報道
に踊らされております。
現在、新型コロナウイルス
のPCR検査が全国的に
行われております。特に、
東京都世田谷区では、「い
つでも、誰でも、何度でも
というキャッチフレーズで
推進しているそうです。

ですが思春期を過ぎますと
部活や友達との付き合い合
を優先しがちになります。
そういった子どもたち
が、人生経験を積んで、熟
成されると、皆様の様に自
ら進んで神に祈り、祖先を
大切にし、お仕えること
の大切さに気付くのです。
やはり、人生には熟成が
必要だということではない
でしょうか。

次世代、その次の世代へ
と手引きをして頂かなけれ
ばなりません。
信仰や道徳は目には見え
ないものです。目には見え
ないからこそ、人生におい
て何が重要で、何を優先す
べきなのかをしっかりと伝
えなければなりません。
そして、自ら進んでご神
前に齎す、ご祖先にお仕
えすることが、何より大事
なことではないかと存じます。

しかし、このPCR検査、
実は検査結果が外れている
ことも中にはあるそうなの
です。ですから、何度も検
査しても、必ずしも安心で
きるものではないのかも知
りません。
やはり、最も重要なのは、
いつも申し上げている様
に、本人の健康状態です。
良識ある生活、規則正しい
生活を心掛けていけば、恐
れるウイルスでは無いと云
うことなのです。
では何故これ程まで世間
が大騒ぎなのでしょう。か。
以前もお話ししました
が、元厚生労働省医系技官

の木村盛世氏をはじめ、京
都大学大学院の上久保靖彦
特定教授、順天堂大学の奥
村康特任教授等は、この病
気は世の中に出た以上、無
くなることはないが、いず
れ、薬が完成すれば、イン
フルエンザと同じ扱いにな
る、と述べられます。
世間は、メディアの作り
上げる虚構に踊らされてい
るに過ぎない、と言えるか
も知れません。つまり、メ
ディアの報道を全て鵜呑み
にする必要はないのです。
よ、ということなのです。
先日、テレビにもよく出
演され、著書『武士の家計

簿』で有名な、磯田道史氏
という日本の歴史学者が、
面白い見解を示されていま
した。
皆さんは、『鬼滅の刃』
という漫画・アニメをご存
知でしょうか。
鬼を「滅する」と書く、
この「鬼滅」という表現を
みて、日本人の考え方が変
わってきたのではないかと
磯田氏は考えておられます。
どういふことかと言いま
すと、神道でも、禍津神が
災い、禍事をもたらす様に、
古来、日本ではその様な存
在を「鬼」とも表現します。
馴染み深いところでは、
節分に「鬼は外」と言っ
て豆まきをし、魁逢らい、
つまら鬼を「追い払う」所作
をします。この表現の違い
に磯田氏は着目したのです。
昔の日本人は、現在のコ
ロナウイルスの様な疫病等
は鬼の災いだと考えていた
様なのです。
京都の平安京の鬼門にあ
たる北東の位置には、鴨川
が流れています。鴨川は、
京都の住民にとって貴重な
飲み水の水源です。
その上流で、動物等から
発生する何らかのウイルス
が川の水と混ざり、その水
を市中の人々が口にすること
で、疫病が流行り、これを
鬼の為す災いだと言っ